


「地域で子どもの育ちを支えよう」

～家庭教育支援チーム「げんよう」の継続的な組織づくり～

P T A名称	下関市立玄洋中学校 P T A	
所在地	下関市彦島本村町二丁目 8-1	
学校地域の概要・組織	<p>本州の最西端、平家滅亡の哀史を秘め、武蔵・小次郎ゆかりの巖流島をいだいた彦島の北部に本校は位置している。下関市街とはわずか 10m の水門をへだてて、下関漁港と相対し、関彦橋ならびに彦島大橋で結ばれ、交通は極めて便利である。さらに、歴史的文化財や自然景観にも恵まれており、地域住民の教育への関心が高く、学校への協力も献身的である。校区内には、本村小学校、西山小学校の 2 校があるが、児童数は減少傾向にあるうえ、例年 10 名程度の児童が近隣の中等教育学校や私立中学校へ進学するため、本校の生徒数も減少傾向にある。</p> <p>P T A の組織は、会長 1 名、副会長 15 名の執行部、及び 5 つの専門部の中心的役割を担う常任委員が中心となり運営している。また、P T A 会員全員が 5 つの専門部のいずれかに所属し、「一人一役」を担って活動に参加している。</p>	
研究テーマ	<p>地域全体で子どもの育ちを支えるために、昨年度、本村小学校・西山小学校・玄洋中学校の 3 校 P T A が主体となり、家庭教育支援チーム「げんよう」を立ち上げた。小学校と中学校の保護者の縦のつながりや、同一学校の保護者や近隣の学校の保護者との横のつながりをつくる活動を進め、家庭教育の大切さを学び、保護者同士の連携を深め、継続的な組織づくりを目指していく。</p>	
成果と課題	<p>家庭教育支援チームを立ち上げ 2 年となり、活動に見通しがもて、スムーズに進めることができ、P T A 専門部の活動の一つとして継続的な取り組みができる組織となってきた。これから活動がさらに豊かになるよう学校運営協議会のコーディネーターや地域の方々等、新しいメンバーで家庭教育支援チームを構成していくことが大切だと考える。</p> <p>コロナ禍でまだまだ先の見えない現状であるが、できる方法を前向きに考えて進めていくことが何より大切だと感じた。</p>	

活動内容

○「学校見学会における【子育てサロン】の開催」

新入学生徒の保護者に先輩保護者（学年部）がつながりをもち、気軽に子育ての相談ができる「子育てサロン」を開催した。保護者同士にしかわからない情報もたくさんあり、入学前に準備する物や部活動のことなど具体的な話で、大変盛り上がっていた。今年度より学年部の活動として企画・準備したことさらに内容も深まっていた。また、専門部のPTA活動とすることでこれからも継続的に行えるようになった。



○「生徒会&おやじの会のコラボ作業」

3校合同の玄洋校区おやじの会に、生徒会より初めて依頼があり、一緒に合同作業を行った。卒業前の3年生が30名近く集まり、下駄箱のペンキ塗りを行った。おやじの会のメンバーに教えてもらいながら、生徒たちはお世話になった学校に感謝の気持ちを込めて、丁寧に作業していた。生徒もおやじの会のお父さんも思い出に残る楽しい作業となり、お互いのかかわりを深めることができた。また、玄洋校区おやじの会に卒業はなく、子どもが成人しているお父さんも、地域の一員として協力してくれている。



○「家庭教育支援研修会」（2校区合同）

近隣の家庭教育支援チーム「ひこしま」と合同で家庭教育支援研修会を開催した。

小・中学校7校のPTA・学校運営協議会のメンバーも参加し、市内の私立高校の副校長先生（前中学校長）が「受験」をテーマに、受験の様々な情報についての詳しいお話をされた。

コロナ禍なので、グループワークは行わず、質疑応答形式でたくさんの質問に対して答えていただき、保護者としての学びを深めることができた。

